

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金 研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [蒲生 悠真]

学年・組・番号 [3 年 D 組 16 番]

研究課題： サンカの発生に関する諸説からのサンカの実像に対する考察
(英文) Consideration of the True Nature of the Japanese Nomad "Sanka" Based on Various Theories about Their Origin

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

本研究の動機は、謎に包まれた漂泊民「サンカ」の起源について、創作の影響を排除した真の実像を明らかにしたいと考えたことにある。目的は、既存の「古代・中世・近世」の各難民説を批判的に検討し、名称の由来と実態の発生プロセスを論理的に再構築することである。

研究方法は、柳田国男や喜田貞吉、三角寛などの先行研究を比較分析する文献調査を中心とする。計画として、まず三角氏による創作的側面を整理し、次に「サンカ」という語が中世の賤民呼称に由来する可能性を検証する。最終的には、近世の飢饉による野非人の発生を軸としつつ、なぜ本来別存在である「箕作り」のイメージがサンカと混同されるに至ったのかを、生業と定住性の観点から考察し、独自の発生論を導き出す。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

本研究では、サンカの起源に関する「古代難民説」「中世難民説」「近世難民説」の三説を比較検討し、サンカの発生プロセスと実像を考察した。

まず、三角寛が提唱した「古代難民説」については、サンカが高度な政治体制や独自の法（ハタムラ）を持つ日本原住民であるとするが、その根拠の多くが三角氏による創作であると判断し、客観的な妥当性は低いと結論付けた。

一方で、実像としてのサンカの発生については「近世難民説」が最も有力であると考えた。天保の大飢饉などの大規模な飢饉に際し、耕作を放棄して山間に逃れた農民（野非人）が、宗門人別改帳から外れて定住地を持たない存在となったことがその端緒である。彼らは「お救い山」などの山林資源や、川魚漁（スッポン捕りを含む）を主な生業としていた。

また、「サンカ」という名称の由来については「中世難民説」を援用し、独自の解釈を加えた。元来、京都周辺で「坂の者」や「三家者」と呼ばれた被差別階級の呼称があり、これが山に住む漂泊民のイメージと結びついて「山家」や「山窩」という字が当てられるようになったと考察した。

特筆すべき点は、現代に伝わる「サンカ＝箕作り」というイメージへの疑義である。箕作りには高度な技術が必要であり、飢饉で逃げ出した農民が即座に習得できるものではない。本来は山間部を巡回していた専門の箕作り職人と、山中を漂泊していた野非人としてのサンカが、後世の文学的影響によって混同された結果、現在の「サンカ像」が形成されたというのが本研究の結論である。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3 年 D 組 蒲生悠真

研究分担者 3 年 D 組 平井利空 3 年 D 組 徳田良信

担当教諭 松澤 徹

(受給額：10000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上